

2024 年 6 月 19 日

学校法人三幸学園
名古屋医療秘書福祉&IT 専門学校
校長 村橋 一成 殿

学校関係者評価委員会
委員長 舟橋 広治

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 舟橋 広治 (愛知県厚生農業協同組合連合会 安生厚生病院
介護老人保健施設あおみ 事務長)
- ② 奥村 幸紀 (医療法人医仁会 さくら総合病院 医事課 課長)
- ③ 原田 万貴 (名古屋大学医学部附属病院 医事課 卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 6 月 14 日 (会場 名古屋医療秘書福祉&IT 専門学校 本館 3 階 305 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 名古屋医療秘書福祉 & IT 専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 岡田裕哉

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 舟橋広治

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

高等教育機関にとって 18 歳人口の減少が問題視されており、広報における学生募集も困難な時代を迎えている。そのような中でも選ばれる学校であり続けるためには、現場と連携を取ることで学生により良い教育を提供し、実績を残していかなければならないと考え、毎年各校務において目標を掲げ、取り組んでいる。

1) 教務指導目標

- ① 「現場基準」に沿った学生育成(社会人教育の徹底)
- ② 内定辞退・内定取り消し率 0%
- ③ 卒業式前日までに就職内定率 100%

【目標の振り返り】

・退学率は9.3%であり、2022年度3.8%と比べ大幅に上回る結果となった。退学率上昇の決定的原因は明言できないが、「目標喪失」「人間関係」「心神耗弱」を理由とした退学が多かった。

・授業アンケートにおいては、退学防止を目的に「学生氏名を呼ぶ」という設問の強化を狙い、ポイント数が向上した。退学率低減の成果は出なかったが、愛校心のある人材育成には影響があったと考える。

・診療情報管理士認定試験は100%の合格率となるなど、資格取得は例年通り好調であった。

(診療情報管理士認定試験においては、5年連続100%の合格率である)

2) 実習指導目標

- ① 実習の学生満足度の向上
- ② 現場との関係構築強化

【目標の振り返り】

- ・医療秘書科2年生を対象にアンケートを実施した結果、57.85%が「とても満足した」、30.6%が「満足した」と88.4%が実習に対して満足している結果となった。前年度は約92%が満足したと回答しているため、満足度は低下した結果となった。
- ・実習に対する不満要素は、受付対応のみなどの限定的な実習内容であることが多くあげられる。今後は、教員の医療機関への事前挨拶の際に、学生が希望する業務は依頼可能かなど実習内容の打合せを重点的に行う必要がある。

3) 就職指導目標

- ① 「現場基準」に沿った学生育成(社会人教育の徹底)
- ② 内定辞退・内定取り消し率 0%
- ③ 卒業式までに就職内定率 100%

【目標の振り返り】

- ・内定辞退、取り消し率が2022年度は6.1%であったが、2023年度は2.8%であり、大幅に改善された。
- ・卒業式までの内定率は96.9%と未達ではあったが例年同様高い就職率は保っている。業界就職率は前年+0.4%の98.2%であり学びを活かした就職実績を出すことができている。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・職種にかかわらず、コミュニケーション能力に課題のある方、ストレス耐性が低い方が増え、つまずきに弱い方が増えている傾向にあると感じている。(舟橋委員:医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科について)
- ・全体的に指導すると負けてしまう、立ち直るまでに時間がかかる職員が増え、私たちの法人には合わないのではないかという印象を受けることがある。最低限は諦めず頑張ってもらいたいと感じている。(奥村委員:医療秘書科・診療情報管理士科について)
- ・自分自身、ミスを起こした際や疑問、悩みがあった際は先輩職員に助けを求めてきた。そのように職場内で解決できる環境が増えるとういと感じている。また自身は同期の職員にもよく相談をしていたが、相談できず途中でくじけてしまう方がいること聞いている。(原田委員:医療秘書科について)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・新設学科、コースにおける外部折衝の機会が少ないため、業界のニーズや動向を把握できていない。

② 今後の改善方策

・訪問機会を増やし、関連企業との関係性構築を重点的に行う。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・保護者への連絡は、他教育機関ではメールでの一斉配信を行っているが、本校では郵送対応をしているというように情報システム化による業務効率が図られていない。
- ・業務の属人化防止。本校では高い専門性が必要になる学科があり、業務の効率化の観点でも業務の属人化が課題としてあげられる。職員の人事異動や産休・育休などによる業務移行があった場合にも業務に漏れが起きないような体制づくりが必要。

② 今後の改善方策

- ・保護者のメールアドレス確保、コース選択申請をグーグルフォームに変更など、業務効率を考え手段を変更する意識を持つ。
- ・業務における TB シートを作成し共有する、授業資料の共有など、誰が担当しても計画的に遂行できる仕組みづくりを構築する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・医療機関での経験がある教員の採用は労力対効果が得られていない。
- ・研修制度はあるものの、クラス運営や業務に追われ、業界知識を深める自己研鑽に時間を取ることができていない。

② 今後の改善方策

- ・継続的に現場経験のある人材を積極採用すること。
- ・業務効率を上げ、自己研鑽の時間を取ることができる環境づくりを行うこと。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・昨年度の実習は問題なく実施することができた。当法人では介護福祉科での実習のほか、病院では医療事務員の実習も実施している。当法人では教育研修センターがプログラムやローテーションを決め、具体的な実

習内容はそれぞれに課で決定している。実習生には、ぜひメモを取る習慣をもっていただきたい。書くことに対する指導は字を書くということ自体が減ってきているので、それほど行っていない。実習も就職も積極性とコミュニケーション能力を求めていること、失敗しても問題がないということをぜひ学生指導の中で伝えていただきたい。職員の育成に関しては、御校同様課題がある。特に中堅と言われる層の関わり方が難しい。介護は比較的順調に職員育成が進んでいるが、事務系の教育が難しくなっている。手が回っていないというのが現状である。一般職の方が具体的な目標を持って業務にあたることができるようにしていくのが当法人での育成の課題と感じている。参考にしていきたい。（舟橋委員：医療事務科・診療情報管理士科・介護福祉科について）

・当院で受け入れた実習生に関しても問題はなかった。その後採用した学生も非常によく頑張ってくれている。自分から考え動くという意識も持っているように感じている。実習では個人情報を取り扱うこと以外は、職員と同じ動きをしていただいている。ぜひ医療事務を目指していただきたいという思いで指導に当たらせていただいている。そういった理由から、制服と名札も職員と同じ物を使っている。受付業務や医事コンピュータにも触れていただき、実習期間の3週間で自分に合う仕事を見つけていただきたい。実習手帳については、書くことの必要性はあると感じるもののデジタル化が進んでいることもあり、パソコン入力可能な形式でもよいと考える。ぜひ検討していただきたい。職員の傾向としては、理由や根拠をしっかりと説明しなければ業務に対し疑問をもつ職員が多くなっていること、PDCAサイクルを考え動くことができていないことが挙げられる。特に評価が苦手である。まずは思った通りにやってみることを勧めているが、できない職員が多いのが職員育成の課題であると感じている。実際、当職も職員面談の機会が増えている。こちらから声をかけなければ、一人で抱え込み結果としてフェードアウトしてしまう職員もいた。また御校の行事である「シミュレーションコンテスト」は非常に有意義だった。今後も継続していただきたい。失敗するという経験が糧になっていくと考える。（奥村委員：医療秘書科・診療情報管理士科について）

・学校生活の中で様々な経験をさせていただいた。課題解決に向けたアドバイスをいただく中で諦めずに前に進んでいこうという姿勢が身に付いた。私は実習先が就職先となった。実習中は様々な部署を経験させていただいた。毎日やるべき業務が異なったが、その経験が現在もいきている。成長するためには、大まかなではなく、具体的な目標を持つことが大切だと考えている。（原田委員：医療秘書科について）

・在学中、電話対応の経験が積みたかった。実践の授業等に組み込んでどうか。また現場では「正確」「迅速」を重視され、「マナー」「敬語」は二の次であるため、学校での学習内容を検討してもよいのではないかと（原田委員：医療秘書科について）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・卒業生支援として同窓会サイトや LINE 登録を卒業式前日に案内しているが、登録率や活用率が低い。
学生としては、個別対応ではなく一斉発信等の連絡手段にニーズがないと考えられる。

② 今後の改善方策

- ・同窓会サイトにおける好事例を案内時に提示する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・当法人では、御校を含め実習で多くの人数を受け入れているが、実習の評価が高ければ採用にも繋がりがやすい傾向がある。先ほどもお伝えしたが、ぜひ積極性を持ち、コミュニケーション能力の高い学生を育てていただきたい。（舟橋委員：医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科について）
- ・当院では採用の際、二次試験で病院長との面接を実施しているが、緊張のあまり不採用となる方もいらっしゃる。Z世代の傾向なのか、萎縮しているようにも思える。ぜひそういった緊張感のある面接指導を行っていたくのもよいかと考える。（奥村委員：医療秘書科・診療情報管理士科について）

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・課外活動の機会創出。学外での学びの機会を増やすことで就職後活躍できる人材を育成する。

② 今後の改善方策

・実習や就職における外部機関訪問の際に、課外活動の機会を提案する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

・新規採用教職員、非常勤講師への防災安全管理方法の周知徹底。

② 今後の改善方策

・全体会議での周知徹底。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の入入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・留学生対応の強化。介護科以外の学科への入学環境設定。

② 今後の改善方策

・留学生対応ができる教員の育成。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・御校の学生数は減っているか。当院も患者様の数は増えているが、職員数は減っている。人材確保は医療機関、学校共通の課題であるとする。例えば病院事務職を希望される方に対し、御校と当院のホームページをリンクさせ、御校卒業生である職員のメッセージを掲載する等、職種や現場の垣根を超えた取り組みができると効果的である。ぜひ検討していただきたい。（奥村委員：医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科について）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・個人情報取り扱い等コンプライアンス研修の継続実施。教職員だけでなく、学生にもコンプライアンスの意識を指導すること。

② 今後の改善方策

- ・現行の研修を継続実施し、定期的に振り返りや改善指導を行う。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・学外ボランティア活動先確保。介護科や保育科は外部機関との連動性があるが、他学科においては不足している。

② 今後の改善方策

・実習や就職に関わる外部訪問の際に課外活動の提案を行う。

③ 特記事項

・医療、薬業業界はボランティア活動が少ない。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・ボランティアの受け入れはコロナ禍以降中止としていた。面会は制限をしておりボランティアは一部解禁もしているが大規模なものは難しい。介護施設は受け入れ可能だが、病院は難しいことが現状である。今後は各病院でイベント実施が増加してくると思うため、それに合わせ今後はボランティア募集も行える可能性がある。（舟橋委員：医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科について）

・当院では過去、半年に一度市民公開講座を開催していた。現在は再開していないが今後実施された際には受付や誘導といったボランティア募集を行うことが可能である。ボランティア募集に関しては、各病院様に直接問い合わせていただくのがよいと考える。（奥村委員：医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科について）

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

・学生の質(N2 以上の日本語能力保持者)を担保した留学生の受け入の強化

② 今後の改善策

・検討中

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本日の会の中で、学校と医療機関が考えていることに共通理解を図ることができたと感じている。若者人口が減り、人材確保が課題であることが明確となった。職員選考の時期も早まり 5 月から行っているという実情も踏まえ、ぜひ1学年からの学びが大切であることをお伝えいただきたい。御校の卒業生は非常に素直で即戦力として活躍していただいていることもぜひ伝えていただきたい。都市部もちろんだが郡部地域ではより一層職員が減っていることも併せてお伝えいただければありがたい。（舟橋委員：医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科について）

「技能と心の調和」という教育理念のもと教育を展開しているが、医療・介護業界における理念の浸透方法や意識付けについて伺うと、まだまだ当校にはできると感じたとともに、改めて、「技能」「心」の両面が必要だと感じた機会でもあった。

当校の学生も以前に比べ、精神的な悩みを抱える生徒が増加しているが、現場でも同様に、精神的な理由で休職、退職になってしまうケースがあるという。人とコミュニケーションをとる仕事であるからこそ、人に対する悩みが発生してしまうことは避けられず、いかに相手と良好な関係を築く力があるか、その重要性を改めて感じた。対人スキルを向上できるような教育機会の提供を今後も実施していきたいと考える。また、現場の ICT 化は以前と比べ進んでいるため、教育現場も ICT 化できる部分は実施し、医療・介護現場と教育現場との乖離が生じないように、引き続き現場の「今」を知る努力も行っていきたいと考える。（岡田副校長：医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科について）